

研究・調査報告書

報告書番号	担当
99	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Cardiovascular risk is more related to drinking pattern than to the type of alcohol drinks 循環器疾患のリスクはアルコールの種類よりもアルコールの摂取様式と密に関連する	
執筆者	
van de Wiel A, de Lange DW.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Neth J Med. 2008;66:467-473	
キーワード	
観察研究、循環器疾患、アルコールの種類、アルコールの摂取様式	
要 旨	
<p>結論：</p> <p>これまでの多くの観察研究では中等量の飲酒が循環器疾患死亡および発症の低下と関連することを示してきた。フレンチパラドックス論に触発されたかどうかはわからないが、複数の研究は、ワインは他の種類のアルコールよりも好ましい影響があると報告している。フラボノイドを含むいくつかのポリフェノールは、白ワインより赤ワインに含まれており、このような「付与効果」を担っていると考えられる。しかし、この結論ははなはだ未熟であり、ワインに含まれるポリフェノールの人体における統計的に有意な生物学的影響は認めていない。さらに、ワイン飲酒はビールや醸造酒飲酒よりも、健康的な生活習慣と関連していることが明らかにされており、このことが少なからず影響している可能性がある。中等量飲酒は対照的に、心筋の伝導障害や血栓形成の促進により、多量飲酒は循環器疾患のリスク上昇と関連している。これらの疑問点を解決するには十分な対象者数による前向き介入研究が必要であるが、そのような研究を得る機会は少ない。現在、入手可能である研究結果からは、ボトルの中身、すなわちアルコールの種類よりもアルコールの摂取様式が循環器疾患と関連していると結論づけることが正しいと考えられる。</p>	